

扶桑町個別施設計画

（公共施設・公用施設編）

2021（令和3）年3月

扶 桑 町

目 次

1	計画策定の社会的背景・目的	1
2	計画の位置付け.....	1
3	計画期間	1
4	人口推移	2
5	対象施設の位置図	3
6	対象施設の状況	4
7	対象施設の目指すべき姿	5
7-1	学校施設	5
(1)	扶桑町立小中学校の一覧	5
(2)	小中学校の概要	5
①	柏森小学校	6
②	高雄小学校	9
③	山名小学校	12
④	扶桑東小学校	15
⑤	扶桑中学校	18
⑥	扶桑北中学校	21
(3)	小中学校についてのまとめ	24
7-2	公共施設・公用施設	25
(1)	計画の方針	25
(2)	計画の目的	26
(3)	施設の実態、今後の具体的方針について	27
①	広域対応施設（全町民利用施設）	27
②	広域対応施設（高齢者福祉施設）	31
③	地域対応施設（児童福祉施設）	33
④	地域対応施設（学習等供用施設）	37
(4)	施設整備の水準等	39
8	計画の推進に向けて	39

1 計画策定の社会的背景・目的

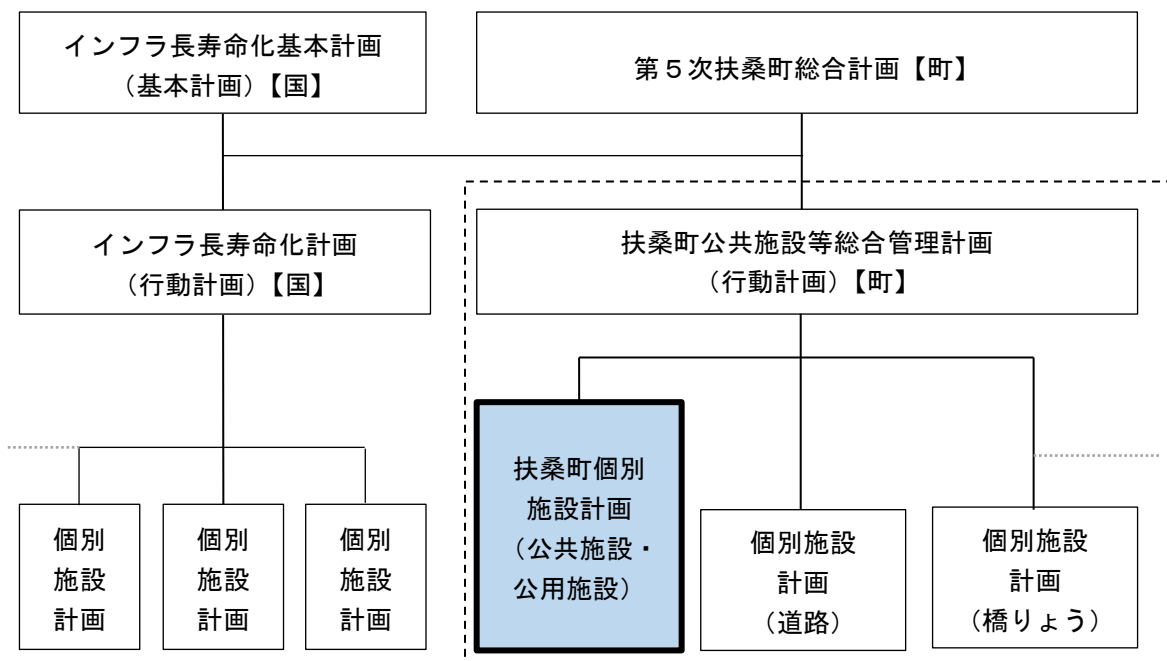
本町では、これまで整備してきた公共施設等の老朽化が進んでおり、建替や改修等に要する多額の費用が見込まれる中、少子高齢化の進行等に伴う社会保障費の増加や生産年齢人口の減少に伴う税収減により、今後の財政状況がより一層厳しくなることが予想されます。

このような状況を踏まえて、今後の公共施設等の効率的な管理運営に向けて、公共施設等の管理に関する基本的な方針を定めた扶桑町公共施設等総合管理計画(以下「総合管理計画」という。)を2017(平成29)年3月に策定しました。

本計画は、総合管理計画の個別施設計画として、基本方針を踏まえながら、施設の統廃合の検討結果や施設管理の対策方針を定めることを目的として策定します。また、公共施設等の総延床面積の約52%を教育施設(小中学校)が占めていることから、策定にあたり、教育施設とそれ以外の施設に分けて考えます。

2 計画の位置付け

本計画は、第5次扶桑町総合計画のもと、総合管理計画において定めた公共施設等の基本方針に基づき、公共施設等個別に今後のあり方等を定めるものです。

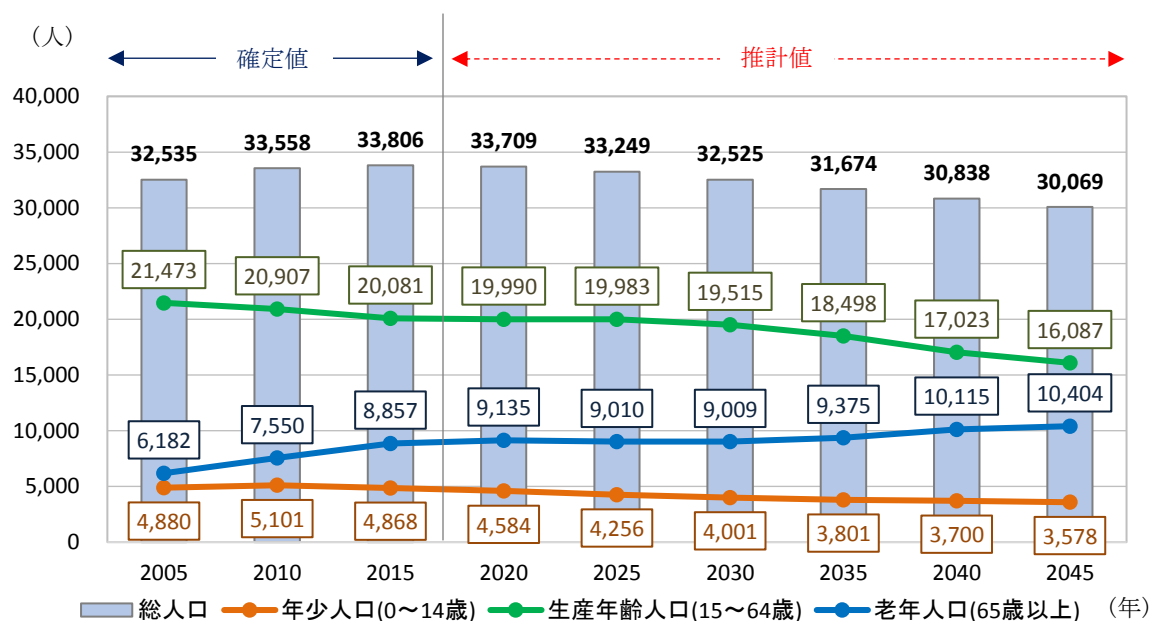


3 計画期間

本計画の計画期間は、総合管理計画との整合を図るため、2021(令和3)年度から2027(令和9)年度までの7年間とします。

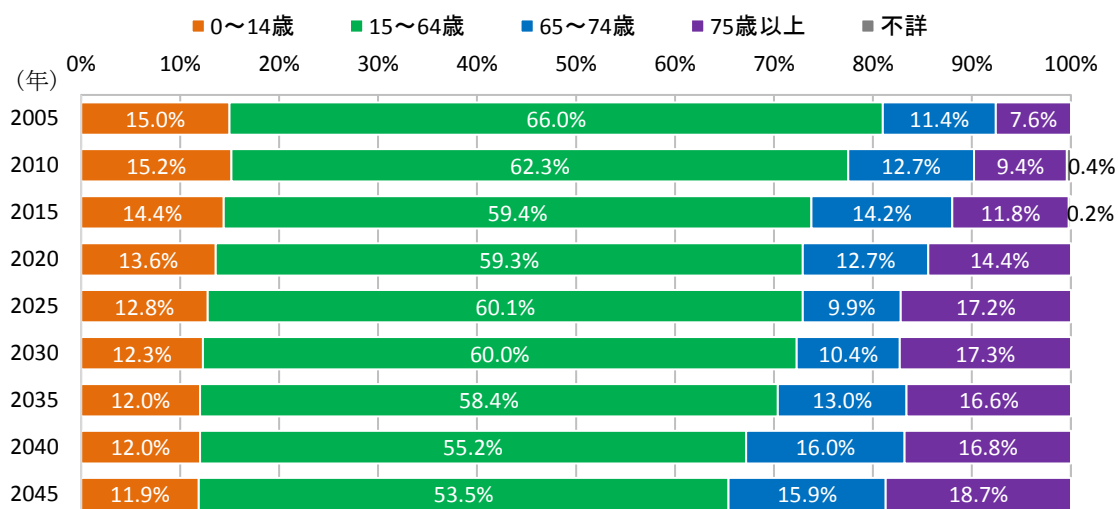
4 人口推移

国立社会保障・人口問題研究所の推計において、人口は2020(令和2)年以降ゆるやかに減少し、2045(令和27)年には約30,000人になると見込まれており、現状と比べて約1割の人口減少となっています。これは、今後の公共施設の運営や維持管理に大きく影響していくと考えられます。なお、2020(令和2)年12月末の実数値は34,913人です。



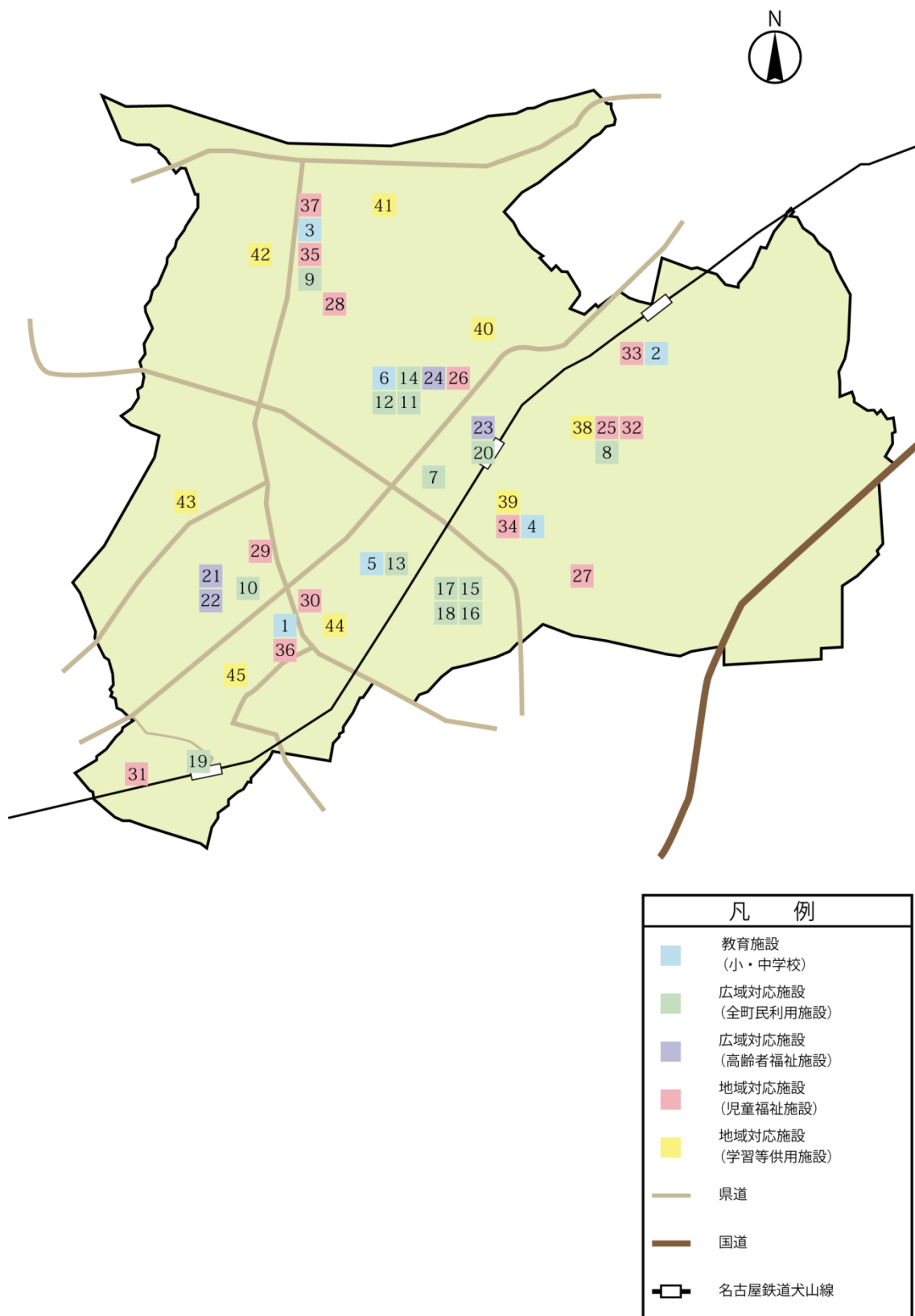
資料：国勢調査（～2015年）、国立社会保障・人口問題研究所（2020年～）

年齢4階級別人口構成の見通しについても、人口推移と同様に国立社会保障・人口問題研究所の推計において、0～14歳の年少人口と15～64歳の生産年齢人口は減少し、65歳以上の老年人口は増加になると見込まれています。この年少人口・生産年齢人口の減少による税収減により、財政状況が厳しくなる見込みです。



資料：国勢調査（～2015年）、国立社会保障・人口問題研究所（2020年～）

5 対象施設の位置図



6 対象施設の状況

分類	中分類	施設No	施設名	施設数	延床面積
教育施設 (小・中 学校)	学校	1	柏森小学校	6施設	41,561.94 m ²
		2	高雄小学校		
		3	山名小学校		
		4	扶桑東小学校		
		5	扶桑中学校		
		6	扶桑北中学校		
広域対応 施設 (全町民 利用施設)	庁舎等	7	扶桑町役場	1施設	3,478.62 m ²
	消防施設	8	扶桑町消防団第1分団消防車庫	3施設	152.00 m ²
		9	扶桑町消防団第2分団消防車庫		
		10	扶桑町消防団第3分団消防車庫		
	文化施設	11	扶桑文化会館	1施設	3,267.91 m ²
	集会施設	12	扶桑町中央公民館	1施設	1,547.82 m ²
	保健施設	13	扶桑町保健センター	1施設	648.99 m ²
	図書館	14	扶桑町図書館	1施設	1,535.23 m ²
	スポーツ施設	15	扶桑町総合体育館	3施設	4,960.28 m ²
		16	扶桑町町民プール		
		総合グラウンド観覧席			
	その他教育施設	18	学校給食共同調理場	1施設	1,914.06 m ²
	その他	19	柏森駅南北連絡橋	2施設	724.07 m ²
20		扶桑駅東西連絡橋			
広域対応 施設 (高齢者 福祉施設)	高齢福祉施設	21	扶桑町総合福祉センター	4施設	5,728.69 m ²
		22	扶桑町サングリーンハウス		
		23	高雄シルバーハウス		
		24	扶桑町老人憩の家		
地域対応 施設 (児童福祉 施設)	保育園	25	高雄保育園	7施設	6,825.51 m ²
		26	高雄西保育園		
		27	高雄南保育園		
		28	山名保育園		
		29	斎藤保育園		
		30	柏森保育園		
		31	柏森南保育園		
	幼児・児童施設	32	高雄子育て支援センター	5施設	1,948.61 m ²
		33	高雄放課後児童クラブ館		
		34	扶桑東放課後児童クラブ館		
		35	山名放課後児童クラブ館		
		36	柏森放課後児童クラブ館		
児童福祉施設	37	児童発達支援事業所「つくし学園」	1施設	147.92 m ²	
地域対応 施設 (学習等 供用施設)	集会施設	38	高雄学習等供用施設	8施設	4,822.86 m ²
		39	扶桑東学習等供用施設		
		40	高雄西学習等供用施設		
		41	山名学習等供用施設		
		42	山名西学習等供用施設		
		43	斎藤学習等供用施設		
		44	柏森学習等供用施設		
		45	柏森中央学習等供用施設		
合計				45 施設	79,264.51 m ²

7 対象施設の目指すべき姿

1. 学校施設

(1) 扶桑町立小中学校の一覧

施設 No.	施設名	建築年度	経過年数 (年)	延床面積 (㎡)	支出 (千円)	児童生徒数 (人)
1	柏森小学校	S43～H19	53～13	8,355.27	18,495	750
2	高雄小学校	S46～H10	49～22	6,509.52	13,829	558
3	山名小学校	S46～S58	49～37	5,249.32	15,819	303
4	扶桑東小学校	S54～S55	42～41	5,343.79	14,848	365
5	扶桑中学校	S46～S61	49～34	9,743.6	17,641	546
6	扶桑北中学校	S56～S58	39～37	7,627.83	19,318	386

※令和2年度現在

(2) 小中学校の概要

各小中学校の運営はすべて直営で行っており、施設に対する町の主な支出は、光熱水費や施設保守費、修繕費、営繕工事費などが挙げられます。

各小中学校を構成している主な建築物として、鉄筋コンクリート造の校舎および体育館、プールが挙げられ、すべての校舎は耐震化改修工事が完了しています。

ただし、各小中学校を構成する建築物の中で、それぞれ最も建設年度が古い建築物のほとんどは建設から40年以上経過しており、各小中学校とも老朽化が進んでいる現状で、近年修繕や営繕工事の必要が増えてきています。

< 語句説明 >

○減築について

建築面積の一部や階数を取り壊し等で減らす事で建築物の床面積を減らし、建築物のコンパクト化を図ることを指します。

○耐震基準の新旧について

旧耐震基準とは、1981（昭和56）年5月以前に建設された建物です。

新耐震基準とは、同年6月以降に建設された建物です。

① 柏森小学校

柏森小学校は、建設から 50 年以上経過している校舎を一部有していますが、1996(平成 8)年度及び 2005(平成 17)年度に耐震診断、2002(平成 14)年度及び 2012(平成 24)年度に耐震改修等の大規模改修を実施しています。

また、その後もおおむね築 45 年を経過した校舎から構造体の劣化度調査を実施し、現状は実用に耐えうる構造体となっています。

【各建築年度の保有面積一覧】

名称	建築年度	経過年数 (年)	延床面積 (㎡)
北校舎東側	S43	52	692.18
北校舎中	S44	51	967.71
本館西側	S49	46	1,104.52
北校舎西側	S52	43	2,380.91
渡り廊下①	S53	42	376.65
北校舎東脱履	S53	42	28.31
本館東側	S55	40	364.13
プール	S58	37	131.91
体育館	H01	32	1,341.21
北校舎配膳室	H03	29	158.4
渡り廊下②	H19	13	63.81
南校舎	H19	13	745.53
合計			8,355.27

※ は旧耐震基準の建築物を示す

【学校用地について】

柏森小学校の用地には、一部借地が含まれています。

学校用地 (㎡)	借地面積 (㎡)	借地割合 (%)	年間借地料 (千円)
17,658.85	2,272.83	12.87	2,592

【施設にかかる経常経費について】

柏森小学校を運営する上で、保有面積に起因し、毎年経常的にかかる経費は、主に光熱水費、施設修繕費、営繕工事費です。

年度	光熱水費 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成 27 年度	4,223	1,304	1,420	2,961	9,908
平成 28 年度	3,644	1,405	2,095	2,778	9,922
平成 29 年度	3,853	1,425	1,534	26,462	33,274
平成 30 年度	4,845	1,408	1,112	14,478	21,843
令和元年度	5,638	3,109	1,161	7,623	17,531
5 年間平均	4,440	1,730	1,464	10,860	18,495

この年度別計の 5 年間平均を、柏森小学校の保有面積で割ると、1 m²あたり 2,213 円が経常的な経費として必要になっています。

【プール】

柏森小学校には、大・中・小の 3 つのプールがあり、授業で毎年約 50 日間使用しています。

また、プール単独で見た経常的な経費は下表のとおりです。

年度	水道料 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成 27 年度	0	144	302	2,700	3,146
平成 28 年度	0	146	238	535	919
平成 29 年度	0	146	295	238	679
平成 30 年度	0	146	526	6,492	7,164
令和元年度	0	147	270	6,967	7,384
5 年間平均	0	145	326	3,386	3,858

【近年の大規模改修事業】

柏森小学校では、近年の大規模改修事業として、下表の事業を行ってきました。

年度	事業名	金額 (千円)
平成 27 年度	体育館大規模改修工事(吊天井撤去)	40,824
平成 28 年度	_____	_____
平成 29 年度	_____	_____
平成 30 年度	エアコン設置工事	92,240
令和元年度	_____	_____

【児童数及び学級数の推移】

柏森小学校の児童数は、下表の様な推移で一時増加はするものの、その後は減少していく見込みです。

年度	児童数 (人)	普通学級 (組)	特別支援学級 (組)	普通教室計 (室)	特別教室 (室)	教室数合計 (室)
平成 22 年	838	24	2	26	15	41
令和 2 年	750	23	2	25	18	43
令和 8 年	751	24	2	26	18	44
令和 12 年	648	24	2	26	18	44
令和 17 年	616	18	2	20	18	38
令和 22 年	598	18	2	20	18	38
令和 27 年	580	18	2	20	18	38

【現状と課題】

柏森小学校は、前述のとおり老朽化が進んだ校舎が比較的多く、建設年度も複数年にわたっています。また、児童数は扶桑町立小中学校の中で最も多く、規模が大きいことが特徴として挙げられます。

課題としては、校舎の一部が扶桑町立小中学校の中で最も古く、法定耐用年数である 60 年を、あと 8 年で迎えてしまうことが挙げられます。

また、校舎の建設年度が複数年にわたる分、改修を要する時期が不定期で、継続的に費用が掛かることも課題の一つとして挙げられます。

【今後の方針と検討課題】

柏森小学校は校舎の構造体劣化度も比較的良好で、今後もコンクリートの中性化対策や内装材の高耐久化等の長寿命化改修など、適切な管理を行えば当面の間問題なく活用が可能です。また、借地が一部あるため、今後は購入による取得も検討していきます。

児童の減少も緩やかな見込みであり、法定耐用年数である 60 年での減築が難しい可能性があるため、築 50～60 年を迎えた段階で必要に応じて長寿命化改修を実施し、旧耐震基準の建築物は築 70 年、新耐震基準の建築物は築 80 年後までの活用を目指します。

ただし、児童数およびクラス数が減少すれば、2035(令和 17)年には現状から 5 クラス分の約 320 m²(1 クラス約 64 m²)の面積的な余剰が発生し、この約 320 m²を仮に減築すれば、年間約 708,000 円の経常的な経費が削減できる可能性があります。

教室にある程度まとまった余剰が発生した段階で、必要に応じて適正規模・適正配置の観点から更新等の検討を進めます。

プールについては、今まで大規模改修を行っておらず、今後老朽化が進みますが、活用日数に対して経費が比較的大きいため、今後の運用方法も含めた検討が必要です。

② 高雄小学校

高雄小学校は、建設から 45 年以上経過している校舎を一部有していますが、2007(平成 19)年度に耐震診断、2008(平成 20)年度に耐震改修等の大規模改修を実施しています。

また、その後もおおむね築 45 年を経過した校舎から構造体の劣化度調査を実施し、現状は実用に耐えうる構造体となっています。

【各建築年度の保有面積一覧】

名称	建築年度	経過年数 (年)	延床面積 (㎡)
校舎西側	S46	49	1,279.86
校舎東側	S48	47	2,571.46
校舎東側②(2～3 階)	S49	46	734.08
西側脱履	H10	22	64.26
渡り廊下	H10	22	89.8
体育館	H10	22	1,409.78
高雄公民館(体育館内)	H10	22	200.15
プール	H12	20	160.13
合計			6,509.52

※ S46 は旧耐震基準の建築物を示す

【学校用地について】

高雄小学校の用地には、一部借地が含まれています。

学校用地 (㎡)	借地面積 (㎡)	借地割合 (%)	年間借地料 (千円)
18,462.33	8,203	44.43	9,352

【施設にかかる経常経費について】

高雄小学校を運営する上で、保有面積に起因し、毎年経常的にかかる経費は、主に光熱水費、施設修繕費、営繕工事費です。

年度	光熱水費 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成 27 年度	4,485	1,828	1,107	2,200	9,620
平成 28 年度	4,422	1,933	1,124	3,938	11,417
平成 29 年度	4,759	2,073	1,243	13,161	21,236
平成 30 年度	4,708	1,957	1,532	5,515	13,712
令和元年度	5,802	2,420	2,001	2,939	13,162
5 年間平均	4,835	2,042	1,401	5,550	13,829

この年度別計の 5 年間平均を、高雄小学校の保有面積で割ると、1 m²あたり 2,124 円が経常的な経費として必要になっています。

【プール】

高雄小学校には、大・中・小の 3 つのプールがあり、授業で毎年約 50 日間使用しています。

また、プール単独で見た経常的な経費は下表のとおりです。

年度	水道料 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成 27 年度	603	122	73	0	798
平成 28 年度	800	124	43	0	967
平成 29 年度	850	124	33	0	1,007
平成 30 年度	857	124	0	843	1,824
令和元年度	1,034	125	0	0	1,159
5 年間平均	828	123	29	168	1,151

【近年の大規模改修事業】

高雄小学校では、近年の大規模改修事業として、下表の事業を行ってきました。

年度	事業名	金額 (千円)
平成 27 年度	—————	—————
平成 28 年度	—————	—————
平成 29 年度	—————	—————
平成 30 年度	—————	—————
令和元年度	エアコン設置工事	74,455

【児童数及び学級数の推移】

高雄小学校の児童数は、今後緩やかに減少していく見込みです。

年度	児童数 (人)	普通学級 (組)	特別支援学級 (組)	普通教室計 (室)	特別教室 (室)	教室数合計 (室)
平成 22 年	510	17	2	19	8	27
令和 2 年	558	18	2	20	9	29
令和 8 年	466	15	2	17	9	26
令和 12 年	478	18	2	16	9	25
令和 17 年	454	18	2	20	9	29
令和 22 年	440	18	2	20	9	29
令和 27 年	427	18	2	20	9	29

【現状と課題】

高雄小学校は、校舎の建築年度は古いですが、体育館及びプールについては比較的新しいものとなっています。

校舎に関しては、建築年度が古い建物の上に増築の形で階を増やしており、年度での単純な減築等の判断が容易ではありません。

また、校舎の一部が、柏森小学校に次いで古く、法定耐用年数である 60 年を、あと 11 年で迎えてしまうことが挙げられます。

【今後の方針と検討課題】

高雄小学校は、校舎の構造体劣化度も比較的良好で、今後もコンクリートの中性化対策や内装材の高耐久化等の長寿命化改修など、適切な管理を行えば当面の間問題なく活用が可能です。また、借地が一部あるため、今後は購入による取得も検討していきます。

増築の方法により耐用年数での減築が難しく、築 50～60 年を迎えた段階で必要に応じて長寿命化改修を実施し、旧耐震基準の建築物は築 70 年、新耐震基準の建築物は築 80 年後までの活用を目指します。

現在の見込みでは児童数は減少する傾向にあるものの、クラス数は減少しない可能性があります。今後教室にある程度まとまった余剰が発生した場合は、必要に応じて適正規模・適正配置の観点から減築や更新等の検討を進めます。

プールについては、今まで大規模改修を行っておらず、今後老朽化が進みますが、活用日数に対して経費が比較的大きいため、今後の運用方法も含めた検討が必要です。

体育館についても、今まで大規模改修を行っておらず、今後老朽化が進むため、築 80 年間の活用を見据え、大規模改修を行う必要があります。

③ 山名小学校

山名小学校は、建設から 45 年以上経過している校舎を一部有していますが、2003(平成 15)年度に耐震診断、2004(平成 16)年度に耐震化改修を実施しています。

また、その後もおおむね築 45 年を経過した校舎から構造体の劣化度調査を実施し、現状は実用に耐えうる構造体となっています。

【各建築年度の保有面積一覧】

名称	建築年度	経過年数 (年)	延床面積 (㎡)
校舎東側	S46	49	2,347.31
校舎西側	S51	44	450.54
校舎(給湯室部)	S52	43	15
校舎(更衣室等)	S52	43	40.32
校舎 3 階中部	S54	41	479.19
南校舎	S58	37	428.44
体育館	H05	27	938.47
山名公民館(体育館内)	H05	27	299.98
プール	H15	17	250.07
合計			5,249.32

※ は旧耐震基準の建築物を示す

【学校用地について】

山名小学校の用地には、借地はありません。

学校用地 (㎡)	借地面積 (㎡)	借地割合 (%)	年間借地料 (千円)
13,963.45	0	0	0

【施設にかかる経常経費について】

山名小学校を運営する上で、保有面積に起因し、毎年経常的にかかる経費は、主に光熱水費、施設修繕費、営繕工事費です。

年度	光熱水費 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成 27 年度	2,929	1,799	1,406	7,444	13,578
平成 28 年度	2,196	1,891	896	2,907	7,890
平成 29 年度	2,826	2,673	1,456	1,572	8,527
平成 30 年度	3,030	2,790	1,754	32,127	39,701
令和元年度	3,016	2,963	1,133	2,289	9,401
5 年間平均	2,799	2,423	1,329	9,267	15,819

この年度別計の 5 年間平均を、山名小学校の保有面積で割ると、1 m²あたり 3,013 円が経常的な経費として必要になっています。

【プール】

山名小学校には、大・中・小の 3 つのプールがあり、授業で毎年約 50 日間使用しています。

また、プール単独で見た経常的な経費は下表のとおりです。

年度	水道料 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成 27 年度	0	129	263	0	392
平成 28 年度	0	130	30	2,702	2,862
平成 29 年度	0	130	370	0	500
平成 30 年度	0	130	384	0	514
令和元年度	0	131	0	0	131
5 年間平均	0	130	209	540	879

【近年の大規模改修事業】

山名小学校では、近年の大規模改修事業として、下表の事業を行ってきました。

年度	事業名	金額 (千円)
平成 27 年度	—————	—————
平成 28 年度	空調機器設置工事	120,850
平成 29 年度	—————	—————
平成 30 年度	—————	—————
令和元年度	—————	—————

【児童数及び学級数の推移】

山名小学校の児童数は、下表の様な推移で一時増加はするものの、その後は減少していく見込みです。

年度	児童数 (人)	普通学級 (組)	特別支援学級 (組)	普通教室計 (室)	特別教室 (室)	教室数合計 (室)
平成 22 年	339	12	1	13	8	21
令和 2 年	303	12	2	14	8	22
令和 8 年	218	9	2	11	8	19
令和 12 年	256	12	2	14	8	22
令和 17 年	243	12	2	14	8	22
令和 22 年	236	12	2	14	8	22
令和 27 年	229	12	2	14	8	22

【現状と課題】

山名小学校は、校舎の建築年度は古いですが、体育館及びプールについては比較的新しいものとなっています。

校舎に関しては、建築年度が古い建物の上に増築の形で階を増やしており、年度での単純な減築等の判断が容易ではありません。

学区内の児童数が扶桑町内で最も少なく、近い将来に一部の学年で 1 クラス化が起こる可能性があります。

【今後の方針と検討課題】

山名小学校は、校舎の構造体劣化度も比較的良好で、今後もコンクリートの中性化対策や内装材の高耐久化等の長寿命化改修など、適切な管理を行えば当面の間問題なく活用が可能です。

また、増築の方法により耐用年数での減築が難しく、築 50～60 年を迎えた段階で、必要に応じて長寿命化改修を実施し、旧耐震基準の建築物は築 70 年、新耐震基準の建築物は築 80 年後までの活用を目指します。

現在の見込みでは児童数は減少する傾向にあるものの、クラス数は減少しない可能性があります。今後教室にある程度まとまった余剰が発生した場合は、必要に応じて適正規模・適正配置の観点から減築や更新等の検討を進めます。

また、プールに関しても検討が必要で、今まで大規模改修を行っておらず、今後老朽化が進みますが、活用日数に対して経費が比較的大きいため、今後の運用方法も含めた検討が必要です。

体育館についても、今まで大規模改修を行っておらず、今後老朽化が進むため、築 80 年間の活用を見据え、大規模改修を行う必要があります。

④ 扶桑東小学校

扶桑東小学校は、建設から 40 年以上経過している校舎で構成されていますが、2004(平成 16)年度及び 2008(平成 20)年度に耐震診断、2005(平成 17)年度及び 2009(平成 21)年度に耐震化改修を実施しています。

また、その後もおおむね築 45 年を経過した校舎から構造体の劣化度調査を実施する予定です。

【各建築年度の保有面積一覧】

名称	建築年度	経過年数 (年)	延床面積 (㎡)
校舎	S54	41	3,914.55
プール	S54	41	100.03
体育館	S55	40	1,329.21
合計			5,343.79

※ は旧耐震基準の建築物を示す

【学校用地について】

扶桑東小学校の用地には、一部借地が含まれています。

学校用地 (㎡)	借地面積 (㎡)	借地割合 (%)	年間借地料 (千円)
14,590.96	2,040.73	13.99	1,788

【施設にかかる経常経費について】

扶桑東小学校を運営する上で、保有面積に起因し、毎年経常的にかかる経費は、主に光熱水費、施設修繕費、営繕工事費です。

年度	光熱水費 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成 27 年度	4,856	1,349	1,819	1,140	9,164
平成 28 年度	4,197	1,718	1,749	2,966	10,630
平成 29 年度	4,342	1,519	1,711	17,957	25,529
平成 30 年度	4,966	1,376	1,253	11,170	18,765
令和元年度	5,506	1,723	1,265	1,658	10,152
5 年間平均	4,773	1,537	1,559	6,979	14,848

この年度別計の 5 年間平均を、扶桑東小学校の保有面積で割ると、1 ㎡あたり 2,778 円が経常的な経費として必要になっています。

【プール】

扶桑東小学校には、大・中・小の3つのプールがあり、授業で毎年約50日間使用しています。

また、プール単独で見た経常的な経費は下表のとおりです。

年度	水道料 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成27年度	849	91	551	0	1,491
平成28年度	902	92	484	1,858	3,336
平成29年度	843	92	38	357	1,330
平成30年度	1,484	92	120	9,742	11,438
令和元年度	1,368	93	324	831	2,616
5年間平均	1,089	92	303	2,557	4,042

【近年の大規模改修事業】

扶桑東小学校では、近年の大規模改修事業として、下表の事業を行ってきました。

年度	事業名	金額 (千円)
平成27年度	—————	—————
平成28年度	—————	—————
平成29年度	—————	—————
平成30年度	—————	—————
令和元年度	エアコン設置工事	60,546

【児童数及び学級数の推移】

扶桑東小学校の児童数は、今後緩やかに減少していく見込みです。

年度	児童数 (人)	普通学級 (組)	特別支援学級 (組)	普通教室計 (室)	特別教室 (室)	教室数合計 (室)
平成22年	400	14	1	15	10	25
令和2年	365	12	4	16	10	26
令和8年	339	12	4	16	10	26
令和12年	324	12	4	16	10	26
令和17年	308	12	4	16	10	26
令和22年	299	12	4	16	10	26
令和27年	290	12	4	16	10	26

【現状と課題】

扶桑東小学校は、扶桑北中学校に次いで新しく、校舎も増築などをせずに建設しているため、管理がしやすいことが特徴ですが、すべての建物は旧耐震基準によって建設されています。

一方、体育館については扶桑中学校に次いで古く、老朽化が進んでいます。

【今後の方針と検討課題】

扶桑東小学校は、今後もコンクリートの中性化対策や内装材の高耐久化等の長寿命化改修など、適切な管理を行えば当面の間問題なく活用が可能です。

築 50～60 年を迎えた段階で、必要に応じて長寿命化改修を実施し、築 70 年後までの活用を目指します。また、借地が一部あるため、今後は購入による取得も検討していきます。

現在の見込みでは児童数は減少する傾向にあるものの、クラス数は減少しない可能性があります。今後教室にある程度まとまった余剰が発生した場合は、必要に応じて適正規模・適正配置の観点から減築や更新等の検討を進めます。

また、プールに関しても検討が必要で、活用日数に対して経費が比較的大きいため、今後の運用方法も含めた検討が必要です。

体育館についても、老朽化が進んでいるため、築 70 年間の活用を見据え、大規模改修を行う必要があります。

⑤ 扶桑中学校

扶桑中学校は、建設から 45 年以上経過している校舎を一部有していますが、2004(平成 16)年度及び 2006(平成 18)年度に耐震診断、2001(平成 13)年度及び 2005(平成 17)年度、2007(平成 19)年度、2013(平成 25)年度に耐震改修等の大規模改修を実施しています。

また、その後もおおむね 45 年を経過した校舎から構造体の劣化度調査を実施し、現状は実用に耐える構造体となっています。

【各建築年度の保有面積一覧】

名称	建築年度	経過年数 (年)	延床面積 (㎡)
北校舎東側	S46	49	1,057.1
体育館	S48	47	2,433.79
北校舎中 1	S51	44	692.09
クラブハウス	S52	43	175.08
北校舎中 2	S53	41	543.46
本館西側	S55	40	2,071.63
北館西側	S60	35	1,858.63
本館東側	S60	35	572.4
渡り廊下	S61	34	193.11
プール	H01	32	146.31
合計			9,743.6

※ は旧耐震基準の建築物を示す

【学校用地について】

扶桑中学校の用地には、借地はありません。

学校用地 (㎡)	借地面積 (㎡)	借地割合 (%)	年間借地料 (千円)
32,810.00	0	0	0

【施設にかかる経常経費について】

扶桑中学校を運営する上で、保有面積に起因し、毎年経常的にかかる経費は、主に光熱水費、施設修繕費、営繕工事費です。

年度	光熱水費 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成 27 年度	4,653	1,290	1,627	0	7,570
平成 28 年度	3,888	1,596	1,823	1,989	9,296
平成 29 年度	3,920	1,710	2,229	1,588	9,447
平成 30 年度	4,128	1,595	1,467	35,326	42,516
令和元年度	4,454	1,612	1,933	11,381	19,380
5 年間平均	4,208	1,560	1,815	10,056	17,641

この年度別計の 5 年間平均を、扶桑中学校の保有面積で割ると、1 m²あたり 1,810 円が経常的な経費として必要になっています。

【プール】

扶桑中学校にはプールがあり、水泳部や授業で毎年約 150 日間使用しています。

また、プール単独で見た経常的な経費は下表のとおりです。

年度	水道料 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成 27 年度	0	114	70	0	184
平成 28 年度	0	117	222	1,373	1,712
平成 29 年度	0	112	0	0	112
平成 30 年度	0	111	0	4,536	4,647
令和元年度	0	116	238	5,500	5,854
5 年間平均	0	114	106	2,281	2,501

【近年の大規模改修事業】

扶桑中学校では、近年の大規模改修事業として、下表の事業を行ってきました。

年度	事業名	金額 (千円)
平成 27 年度	—————	—————
平成 28 年度	体育館大規模改修工事(吊天井撤去)	64,563
平成 29 年度	—————	—————
平成 30 年度	—————	—————
令和元年度	エアコン設置工事	82,505

【生徒数及び学級数の推移】

扶桑中学校の生徒数は、緩やかに減少していく見込みです。

年度	生徒数 (人)	普通学級 (組)	特別支援学級 (組)	普通教室計 (室)	特別教室 (室)	教室数合計 (室)
平成 22 年	534	17	2	19	21	40
令和 2 年	546	16	3	19	19	38
令和 8 年	544	16	3	19	19	38
令和 12 年	543	16	3	19	19	38
令和 17 年	451	13	3	16	19	35
令和 22 年	438	13	3	16	19	35
令和 27 年	425	13	3	16	19	35

【現状と課題】

扶桑中学校は、前述のとおり老朽化が進んだ校舎が比較的多く、また、建設年度も複数年にわたっています。

また、生徒数は扶桑町立小中学校の中でも多く、規模が大きいことが特徴として挙げられます。

課題としては、校舎の一部が、柏森小学校に次いで古く、法定耐用年数である 60 年を、あと 11 年で迎えてしまうことが挙げられます。

また、校舎の建設年度が複数年にわたる分、改修を要する時期が不定期で、継続的に費用が掛かることも課題の一つとして挙げられます。

【今後の方針と検討課題】

扶桑中学校は校舎の構造体劣化度も比較的良好で、今後もコンクリートの中性化対策や内装材の高耐久化等の長寿命化改修など、適切な管理を行えば当面の間問題なく活用が可能です。

また、生徒の減少も緩やかな見込みであり、法定耐用年数である 60 年での減築が難しい可能性があるため、築 50～60 年を迎えた段階で、必要に応じて長寿命化改修を実施し、旧耐震基準の建築物は築 70 年、新耐震基準の建築物は築 80 年後までの活用を目指します。

ただし、生徒数およびクラス数が減少すれば、2035(令和 17)年には現状から 3 クラス分の約 192 m²(1 クラス約 64 m²)の面積的な余剰が発生し、この約 192 m²を仮に減築すれば、年間約 348,000 円の経常的な経費が削減できる可能性があります。

教室にある程度まとまった余剰が発生した段階で、必要に応じて適正規模・適正配置の観点から減築や更新等の検討を進めます。

また、プールに関しても検討が必要で、今まで大規模改修を行っておらず、今後老朽化が進みますが、活用日数に対して経費が比較的大きいため、今後の運用方法も含めた検討が必要です。

⑥ 扶桑北中学校

扶桑北中学校は、建設から 35 年以上経過している校舎で構成されており、扶桑町立の小中学校のなかで最も新しい学校です。

今まで 2001(平成 13)年度に体育館、2013(平成 25)年度に校舎の大規模改修を行っています。

また、その後もおおむね築 45 年を経過した校舎から構造体の劣化度調査を実施する予定です。

【各建築年度の保有面積一覧】

名称	建築年度	経過年数 (年)	延床面積 (㎡)
本校舎	S56	39	5,096.13
北校舎	S56	39	378
クラブハウス	S56	39	163.11
プール	S57	38	140.75
体育館	S57	38	1,849.84
合計			7,627.83

【学校用地について】

扶桑北中学校の用地には、借地はありません。

学校用地 (㎡)	借地面積 (㎡)	借地割合 (%)	年間借地料 (千円)
28,004.76	0	0	0

【施設にかかる経常経費について】

扶桑北中学校を運営する上で、保有面積に起因し、毎年経常的にかかる経費は、主に光熱水費、施設修繕費、営繕工事費です。

年度	光熱水費 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度合計 (千円)
平成 27 年度	5,866	1,739	2,404	1,059	11,068
平成 28 年度	4,824	2,074	2,161	18,854	27,913
平成 29 年度	5,438	2,192	1,259	1,750	10,639
平成 30 年度	5,793	2,071	1,438	25,578	34,880
令和元年度	6,297	2,185	1,759	1,849	12,090
5 年間平均	5,643	2,052	1,804	9,818	19,318

この年度別計の 5 年間平均を、扶桑北中学校の保有面積で割ると、1 m²あたり 2,532 円が経常的な経費として必要になっています。

【プール】

扶桑北中学校にはプールがあり、水泳部や授業で毎年約 150 日間使用しています。

また、プール単独で見た経常的な経費は下表のとおりです。

年度	水道料 (千円)	設備保守費 (千円)	修繕費 (千円)	営繕工事費 (千円)	年度別合計 (千円)
平成 27 年度	334	114	216	0	664
平成 28 年度	264	117	491	0	872
平成 29 年度	445	113	294	0	852
平成 30 年度	841	111	905	0	1,857
令和元年度	413	116	759	0	1,288
5 年間平均	459	114	533	0	1,106

【近年の大規模改修事業】

扶桑北中学校では、近年の大規模改修事業として、下表の事業を行ってきました。

年度	事業名	金額 (千円)
平成 27 年度	_____	_____
平成 28 年度	_____	_____
平成 29 年度	_____	_____
平成 30 年度	_____	_____
令和元年度	エアコン設置工事	76,446

【生徒数及び学級数の推移】

扶桑北中学校の生徒数は、下表の様な推移で一時増加はするものの、その後は減少していく見込みです。

年度	生徒数 (人)	普通学級 (組)	特別支援学級 (組)	普通教室計 (室)	特別教室 (室)	教室数合計 (室)
平成 22 年	436	13	2	15	23	38
令和 2 年	386	11	3	14	24	38
令和 8 年	426	13	3	16	24	40
令和 12 年	358	11	3	14	24	38
令和 17 年	314	9	3	12	24	36
令和 22 年	305	9	3	12	24	36
令和 27 年	296	9	3	12	24	36

【現状と課題】

扶桑北中学校は、扶桑町内の小中学校の中で最も新しく、校舎も増築などをせずに建設しているため、管理がしやすいことが特徴です。

【今後の方針と検討課題】

扶桑北中学校は、今後もコンクリートの中性化対策や内装材の高耐久化等の長寿命化改修など、適切な管理を行えば当面の間問題なく活用が可能です。

築 50～60 年を迎えた段階で、必要に応じて長寿命化改修を実施し、築 80 年後までの活用を目指します。

ただし、生徒数およびクラス数が減少すれば、令和 17 年には現状から 2 クラス分の約 128 m²(1 クラス約 64 m²)の面積的な余剰が発生し、この約 128 m²を仮に減築すれば、年間約 325,000 円の経常的な経費が削減できる可能性があります。

教室にある程度まとまった余剰が発生した段階で、必要に応じて適正規模・適正配置の観点から減築等の検討を進めます。

また、プールに関しても検討が必要で、活用日数に対して経費が比較的大きいため、今後の運用方法も含めた検討が必要です。

体育館についても、今後長く活用をするためにも大規模改修を行う必要があります。

(3) 小中学校についてのまとめ

小中学校は建設年度も多岐に渡っており、今後も継続的に使用するためには、適切な管理を行う必要がありますが、構造体自体の劣化はおおむね良好のため、全小中学校については旧耐震基準で建設された校舎は築 70 年、新耐震基準で建設された校舎は築 80 年の活用を目指します。また、学校用地の中には借地も一部あることから、今後は購入による用地の取得についても検討していきます。

今後、児童生徒数の減少により一部の学校でクラス数の減少が見込まれます。現行制度である小学校のクラス編成定数 40 人で見込んだ場合は、6 小中学校中 5 小中学校で、合計約 1,152 m²の面積的な余剰が生まれる可能性があります。しかしながら、今後実施される小学校のクラス編成定数 35 人化を見込んで試算しますと、6 小中学校中 3 小中学校で、合計約 640 m²の面積的な余剰にとどまります。

本計画で見込んだ減築可能な約 640 m²の面積は、学校施設全体の面積 41,561.94 m²のうち 1.5%にとどまっています。各校舎の更新等の時期には、児童生徒数の推移や空き教室の状況を踏まえて、適正規模、適正配置の検討を行います。

2. 公共施設・公用施設

(1) 計画の方針

各施設の今後の方針については、所管課とヒアリングを行い、方向性を決めていきます。

旧耐震基準の施設は、長寿命化の目標とする耐用年数を70年とします。また、新耐震基準の施設は、80年とします。木造については、新耐震基準の施設のための、60年とします。(耐震基準の新旧の区分については、P5 参照)

経常経費については、借地料を含んだ金額を記載し、各施設の残存期間を乗じたものを、今後維持にかかる費用とします。また、建物部分にかかる借地については、購入計画を作成し、優先順位をつけて取得を検討します。

更新費用は、中分類毎に総務省の更新費用試算ソフトによる単価で算出します。

中分類	大規模改修	建替
庁舎等	25 万円/㎡	40 万円/㎡
消防施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
文化施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
集会施設	25 万円/㎡	40 万円/㎡
保健施設	20 万円/㎡	36 万円/㎡
図書館	25 万円/㎡	40 万円/㎡
スポーツ施設	20 万円/㎡	36 万円/㎡
その他教育施設	17 万円/㎡	33 万円/㎡
その他	20 万円/㎡	36 万円/㎡
高齢福祉施設	20 万円/㎡	36 万円/㎡
保育園	17 万円/㎡	33 万円/㎡
幼児・児童施設	17 万円/㎡	33 万円/㎡
児童福祉施設	20 万円/㎡	36 万円/㎡

大規模改修費用については、上記単価で算出した数値に残存期間を乗じて耐用年数で除したものを、実際にかかる費用として算出します。なお、この費用は、設備機器に関するものは含めず、建物に関するもののみとしています。

(2) 計画の目的

すべての施設に対して長寿命化することを前提としながらも、施設保有総量の適正化(総量コントロール)を図ります。縮減できる施設は縮減し、施設の統廃合を進めていきます。

総合管理計画策定時と比べ、施設保有総量が放課後児童クラブ館4棟(計1,809.44㎡)と建設予定の(仮称)多機能児童館(1,200㎡規模を想定)を合計した3,009.44㎡増えているため、この増加した分の面積をまず縮減するよう考えます。

これに総量コントロールの目標として、P2で示したように、現状より約1割人口が減少する見込みであることから、総合管理計画策定時の学校を除く施設の合計面積(35,893.13㎡)の1割(3,589.31㎡)を加えた6,598.75㎡分の建物面積を減らすことを目的とし、どれぐらい施設を縮減できるかを検討します。

<次頁からの表の見方>

○増築している施設について

建築年度の表記は当初建築年度のみです。
また、延床面積の表記は増築後の面積です。

○経常経費について

2017(平成29)年度の実績値です。
なお、放課後児童クラブ館のみ2019(令和元)年度の実績値です。

○残存期間の経常経費について①

各施設の経常経費に残存期間を乗じたものです。
例)扶桑町役場 $15,282 \text{ 千円} \times 15 \text{ 年} = 229,230 \text{ 千円}$

○大規模改修費用について

各施設の延床面積にP25で示した中分類毎の単価を乗じたものです。
例)扶桑町役場 $3,478.62 \text{ ㎡} \times 25 \text{ 万円/㎡} = 869,655 \text{ 千円}$

○残存期間に対する大規模改修費用について②

各施設の大規模改修費用に残存期間を乗じてから耐用年数で除したものです。
例)扶桑町役場 $869,655 \text{ 千円} \times 15 \text{ 年} \div 70 \text{ 年} = 186,355 \text{ 千円}$

○建替費用について③

各施設の延床面積にP25で示した中分類毎の単価を乗じたものです。
例)扶桑町役場 $3,478.62 \text{ ㎡} \times 40 \text{ 万円/㎡} = 1,391,448 \text{ 千円}$

(3) 施設の実態、今後の具体的方針について

① 広域対応施設（全町民利用施設）

ア 施設の実態

施設 No	所管課	施設名	建築 年度	延床面積 (単位:㎡)	耐用 年数	経過 年数	残存 期間	経常経費 (うち借地料)
7	総務課	扶桑町役場	1966	3,478.62	70	55	15	15,282 (0)
8	災害対策室	扶桑町消防団 第1分団消防車庫	1980	48.00	70	41	29	554 (0)
9	災害対策室	扶桑町消防団 第2分団消防車庫	1982	52.00	80	39	41	561 (0)
10	災害対策室	扶桑町消防団 第3分団消防車庫	1983	52.00	80	38	42	565 (0)
11	文化会館	扶桑文化会館	1994	3,267.91	80	27	53	29,061 (4,982)
12	生涯学習課	扶桑町中央公民館	1980	1,547.82	70	41	29	6,141 (0)
13	介護健康課	扶桑町保健センター	1979	648.99	70	42	28	5,089 (834)
14	生涯学習課	扶桑町図書館	1986	1,535.23	80	35	45	11,159 (605)
15	生涯学習課	扶桑町総合体育館	1982	4,519.04	80	39	41	8,952 (0)
16	生涯学習課	扶桑町町民プール	1974	264.48	70	47	23	6,520 (0)
17	生涯学習課	総合グラウンド 観覧席	1991	176.76	80	30	50	4,417 (1,964)
18	学校教育課	学校給食共同調理場	2011	1,914.06	80	10	70	29,893 (0)
19	都市整備課	柏森駅南北連絡橋	2006	537.94	80	15	65	13,514 (0)
20	都市整備課	扶桑駅東西連絡橋	1994	186.13	80	27	53	2,093 (0)
計			—	18,228.98	—	—	—	133,801 (8,385)

(経費、費用単位：千円)

残存期間の経常経費 (うち借地料)①	大規模 改修費用	残存期間に対する 大規模改修費用②	建替費用 ③	建替までにかかる 費用(①+②+③)	今後の方針
229,230 (0)	869,655	186,355	1,391,448	1,807,033	建替
16,066 (0)	8,160	3,381	15,840	35,287	機能は他施設へ の移転を検討 移転後は防災倉 庫として転用
23,001 (0)	8,840	4,531	17,160	44,692	
23,730 (0)	8,840	4,641	17,160	45,531	
1,540,233 (264,046)	816,978	541,248	1,307,164	3,388,645	継続
178,089 (0)	386,955	160,310	619,128	957,527	継続 建替はしない
142,492 (23,352)	129,798	51,919	233,636	428,047	継続
502,155 (27,225)	383,808	215,892	614,092	1,332,139	継続
367,032 (0)	903,808	463,202	1,626,854	2,457,088	継続
149,960 (0)	52,896	17,380	95,213	262,553	廃止
220,850 (98,200)	35,352	22,095	63,634	306,579	継続
2,092,510 (0)	325,390	284,716	631,640	3,008,866	継続
878,410 (0)	107,588	87,415	193,658	1,159,483	継続
110,929 (0)	37,226	24,662	67,007	202,598	継続
6,474,687 (412,823)	4,075,294	2,067,747	6,893,634	15,436,068	—

イ 今後の具体的方針

施設 No	施設名	今後の具体的方針
7	扶桑町役場	長寿命化により 70 年(あと 15 年)使用 建替費用(概算) : $3478.2 \text{ m}^2 \times 40 \text{ 万円} / \text{m}^2 = \text{約 } 14 \text{ 億円}$ 必要になり、 建替の際の土地の選定、防災拠点、庁舎の分散化などを検討 うち 5 割程度にあたる 7 億円は基金として積立ができるよう検討
8	扶桑町消防団 第 1 分団消防車庫	周辺施設の建替時に複合化を検討し、団数を中学校単位の 3 団→2 団に できるか検討 団員の確保が難しいが、団数を減らしても団員数は減らさない方針
9	扶桑町消防団 第 2 分団消防車庫	
10	扶桑町消防団 第 3 分団消防車庫	
11	扶桑文化会館	運営方法の見直しを検討 内部機器を含む施設改修に多額の費用が必要 借地の購入計画
12	扶桑町中央公民館	長寿命化により耐用年数まで使用し、使用後は、周辺施設の建替・改修 時に複合化を検討 減免が多いため、受益者負担の見直しを検討
13	扶桑町保健センター	改修して使用 借地の購入計画
14	扶桑町図書館	大規模改修工事の計画 借地の購入計画
15	扶桑町総合体育館	令和 3～6 年度で大規模改修を行い、指定管理など運営方法を検討
16	扶桑町町民プール	令和 3 年度から廃止し、取り壊し時期及び跡地利用については検討
17	総合グラウンド 観覧席	ナイター用照明設備の改修を検討
18	学校給食共同調理場	築 25 年(2036 年)を目処に大規模改修工事の計画 配送業務など業務委託できないか検討
19	柏森駅南北連絡橋	エスカレーターとエレベーターは毎年修繕を行い、耐用年数の期限まで に改修工事等について検討
20	扶桑駅東西連絡橋	エスカレーターとエレベーターは毎年修繕を行い、耐用年数の期限まで に改修工事等について検討 ただし、現在の管理は駅東側のみで、令和 14 年度からは西側も扶桑町に 管理が移る。

ウ まとめ

今後の方針として廃止とする施設は、「扶桑町町民プール」です。2021(令和3)年度から廃止し、取り壊し時期及び跡地利用については検討していきます。また、耐用年数まで使用し他施設との複合化を検討する施設は「扶桑町中央公民館」であり、この2施設に関しては、建替を行いません。

継続的に使用する方針の施設について、残存期間が15年となっている「扶桑町役場」は、建替に向けて準備を始めていきます。3つの消防団車庫は、複合化を検討しますが、建物については、転用し継続使用していきます。その他の施設については、建物を継続的に使用し、それぞれの施設にて課題となっている問題を解消していきます。

全体的な問題として、借地が多く、借地料として経常的な経費がかかっています。将来的に土地を返還する予定のあるものについては借地を継続しますが、建物が建っている敷地など、今後当面の間土地を返還する予定のないものについては、優先順位をつけながら購入による取得を検討していきます。

また、建替を行わない2施設の縮減見込み面積は、合計で1,812.30㎡であり、この縮減により維持更新にかかるおよそ8億8,168万1千円の費用の縮減があわせて見込めます。

② 広域対応施設（高齢者福祉施設）

ア 施設の実態

施設 No	所管課	施設名	建築 年度	延床面積 (単位:㎡)	耐用 年数	経過 年数	残存 期間	経常経費 (うち借地料)
21	福祉児童課	扶桑町総合 福祉センター	1999	3,179.18	80	22	58	50,809 (2,147)
22	介護健康課	扶桑町サン グリーンハウス (事務所部分)	1985	724.24	80	36	44	7,752 (2,145)
		扶桑町サン グリーンハウス (温室部分)	1985	859.74	80	36	44	612 (612)
23	介護健康課	高雄シルバー ハウス	1972	247.41	70	49	21	3,184 (1,312)
24	介護健康課	老人憩の家	1973	718.12	70	48	22	7,336 (579)
計			—	5,728.69	—	—	—	69,693 (6,795)

イ 今後の具体的方針

施設 No	施設名	今後の具体的方針
21	扶桑町総合 福祉センター	指定管理者の受益者負担の考え方の整理 大規模改修工事の計画 借地の購入計画
22	扶桑町サン グリーンハウス (事務所部分)	大規模改修履歴・計画
	扶桑町サン グリーンハウス (温室部分)	令和3年度中に取り壊し 跡地については、他用途への利用変更等も含め検討
23	高雄シルバー ハウス	長寿命化をせずに、使えるまで使用 縮小を視野にいれ、サングリーンハウスと統合を検討
24	老人憩の家	令和4年度に指定管理者の更新又は変更を検討

(経費、費用単位：千円)

残存期間の経常経費 (うち借地料)①	大規模 改修費用	残存期間に対する 大規模改修費用②	建替費用 ③	建替までにかかる 費用(①+②+③)	今後の方針
2,946,922 (124,526)	635,836	460,981	1,144,505	4,552,408	指定管理者の受益者 負担を見直し、継続
341,088 (94,380)	144,848	79,666	260,726	681,480	継続
26,928 (26,928)	17,195	9,457	30,951	67,336	温室部分を廃止
66,864 (27,552)	49,482	14,845	89,068	170,777	継続 建替はしない
161,392 (12,738)	143,624	45,139	258,523	465,054	継続 建替はしない
3,543,194 (286,124)	990,985	610,088	1,783,773	5,937,055	—

※構造を考慮し温室の大規模改修単価と建替単価を1/10（大規模改修単価2万円/㎡と建替単価3.6万円/㎡）で試算

ウ まとめ

今後の方針として廃止とする施設は、「扶桑町サングリーンハウス」の温室部分です。2021(令和3)年度中に取り壊しを行う予定です。また、「高雄シルバーハウス」と「老人憩の家」の2施設に関しては、建替を行いません。

継続的に使用する方針の2施設について、「扶桑町総合福祉センター」は、指定管理者の受益者負担の考え方を整理していきます。「扶桑町サングリーンハウス」は、今後の改修計画の策定を行います。

この施設分類においても、借地が多く、借地料として経常経費がかかっています。建物が建っている敷地がほとんどであるため、優先順位をつけて購入による取得を検討していきます。

また、建替を行わない3施設の縮減見込み面積は、合計で1,825.27㎡であり、この縮減により維持更新にかかるおよそ4億1,492万7千円の費用の縮減があわせて見込めます。

③ 地域対応施設（児童福祉施設）

ア 施設の実態

施設 No	所管課	施設名	建築 年度	延床面積 (単位：㎡)	耐用 年数	経過 年数	残存 期間	経常経費 (うち借地料)
25	福祉児童課	高雄保育園	1982	857.90	80	39	41	70,545 (1,194)
26	福祉児童課	高雄西保育園	1989	1,189.56	80	32	48	91,363 (1,067)
27	福祉児童課	高雄南保育園	1974	934.90	70	47	23	74,801 (346)
28	福祉児童課	山名保育園	1977	1,022.18	70	44	26	89,652 (0)
29	福祉児童課	斎藤保育園	1970	924.15	70	51	19	56,593 (0)
30	福祉児童課	柏森保育園	1984	999.74	80	37	43	81,535 (228)
31	福祉児童課	柏森南保育園	1992	897.08	80	29	51	62,560 (0)
32	福祉児童課	高雄子育て 支援センター	2003	139.17	60	18	42	4,629 (0)
33	福祉児童課	高雄放課後 児童クラブ館	2018	459.55	60	3	57	56,293 (197)
34	福祉児童課	扶桑東放課後 児童クラブ館	2018	367.00	60	3	57	
35	福祉児童課	山名放課後 児童クラブ館	2018	358.87	60	3	57	
36	福祉児童課	柏森放課後 児童クラブ館	2018	624.02	80	3	77	
37	福祉児童課	児童発達支援事業所 「つくし学園」	1972	147.92	70	49	21	16,385 (1,297)
計			—	8,922.04	—	—	—	604,356 (4,329)

(経費、費用単位：千円)

残存期間の経常経費 (うち借地料)①	大規模 改修費用	残存期間に対する 大規模改修費用②	建替費用 ③	建替までにかかる 費用(①+②+③)	今後の方針
2,892,345 (48,954)	145,843	74,745	283,107	3,250,197	統廃合などによ り、保育園の配 置を再検討する
4,385,424 (51,216)	202,225	121,335	392,555	4,899,314	
1,720,423 (7,958)	158,933	52,221	308,517	2,081,161	
2,330,952 (0)	173,771	64,543	337,319	2,732,814	
1,075,267 (0)	157,106	42,643	304,970	1,422,880	
3,506,005 (9,804)	169,956	91,351	329,914	3,927,270	
3,190,560 (0)	152,504	97,221	296,036	3,583,817	継続 建替はしない
194,418 (0)	23,659	16,561	45,926	256,905	
3,208,701 (11,229)	307,605	292,225	597,115	4,098,041	継続
344,085 (27,237)	29,584	8,875	53,251	406,211	事業は他施設へ 移転を検討 建物は廃止
22,848,180 (156,398)	1,521,186	861,720	2,948,710	26,658,610	—

イ 今後の具体的方針

施設 No	施設名	今後の具体的方針
25	高雄保育園	保育園 1 園あたりの在籍園児数が少ないため、保育園の再配置に合わせて適正な定員を検討 新基準の施設は耐用年数まで使用し、将来的に棟数を減らすことを目的として統廃合可能な施設を建替する。 建替予定がある借地の購入計画 自園調理を業務委託するなど、経費削減への取り組みを検討
26	高雄西保育園	
27	高雄南保育園	
28	山名保育園	
29	斎藤保育園	
30	柏森保育園	
31	柏森南保育園	
32	高雄子育て 支援センター	(仮称)多機能児童館の設計が完了する前までに、子育て支援センター機能の再編・あり方を検討 長寿命化しようとする、空調設備、都市ガス整備が必要
33	高雄放課後 児童クラブ館	運営手法(指定管理、業務委託)と利用料適正化の検証
34	扶桑東放課後 児童クラブ館	
35	山名放課後 児童クラブ館	
36	柏森放課後 児童クラブ館	
37	児童発達支援事業所 「つくし学園」	100%借地のため、他の廃止する施設が町有地にある場合は、そちらに移転することを検討 耐用年数まで使用する、令和 7、8 年度に大規模改修が必要

ウ まとめ

今後の方針として将来的に廃止する予定の施設は、「高雄子育て支援センター」と「児童発達支援事業所「つくし学園」」です。両施設とも機能は、他施設へ移転する予定です。この2施設に関しては、建替を行いません。

7つの保育園については、統廃合などにより、保育園の配置を再検討します。具体的にどの園を統廃合するかについては、今後検討していきます。現状の7園体制から園数を減らす方針のため、7園の総床面積(6,825.51 m²)から2割(1,365.10 m²)の面積は、縮減可能な面積として見込みます。

4つの放課後児童クラブ館については、運営手法を検討し、将来的な修繕計画を作成します。

借地については、保育園に多く存在しており、借地料として経常経費がかかっています。将来的な統廃合計画にもよりますが、統合して残していく保育園の敷地に借地がある場合は、優先順位をつけながら購入による取得を検討していきます。

また、建替を行わない2施設の縮減見込み面積は、合計で287.09 m²であり、この縮減により維持更新にかかるおよそ9,917万7千円の費用の縮減があわせて見込めます。

④ 地域対応施設（学習等供用施設）

ア 施設の実態

施設 No	所管課	施設名	建築 年度	延床面積 (単位:㎡)	耐用 年数	経過 年数	残存 期間	経常経費 (うち借地料)
38	生涯学習課	高雄学習等供用施設	1976	635.52	70	45	25	1,868(0)
39	生涯学習課	扶桑東学習等供用施設	1983	636.18	80	38	42	3,075(911)
40	生涯学習課	高雄西学習等供用施設	1986	627.61	80	35	45	2,004(438)
41	生涯学習課	山名学習等供用施設	1975	400.28	70	46	24	1,854(453)
42	生涯学習課	山名西学習等供用施設	1982	620.98	80	39	41	4,247(0)
43	生涯学習課	斎藤学習等供用施設	1984	636.60	80	37	43	1,984(0)
44	生涯学習課	柏森学習等供用施設	1978	628.70	70	43	27	2,966(0)
45	生涯学習課	柏森中央学習等供用施設	1985	636.99	80	36	44	2,126(203)
計			—	4,822.86	—	—	—	20,124(2,005)

イ 今後の具体的方針

施設 No	施設名	今後の具体的方針
38	高雄学習等供用施設	平成22年度大規模改修完了。令和3年度にコア抜き調査 長寿命化は図らず、設備が稼働する限り使用し、以後廃止 廃止後の機能は、扶桑東・高雄西学習等供用施設に統合する。
39	扶桑東学習等供用施設	平成25年度大規模改修完了。令和10年度にコア抜き調査 借地購入の検討
40	高雄西学習等供用施設	平成28年度大規模改修完了 借地購入の検討
41	山名学習等供用施設	平成22年度大規模改修完了。 長寿命化は図らず、設備が稼働する限り使用し、以後廃止 廃止後の機能は、山名西学習等供用施設に統合する。
42	山名西学習等供用施設	平成24年度大規模改修完了。令和8年度にコア抜き調査
43	斎藤学習等供用施設	平成26年度大規模改修完了
44	柏森学習等供用施設	平成23年度大規模改修完了。令和3年度にコア抜き調査 長寿命化は図らず、設備が稼働する限り使用し、以後廃止 廃止後の機能は、柏森中央・斎藤学習等供用施設に統合する。
45	柏森中央学習等供用施設	平成27年度大規模改修完了。令和12年度にコア抜き調査 借地購入を検討

(経費、費用単位：千円)

残存期間の経常経費 (うち借地料)①	大規模 改修費用	残存期間に対する 大規模改修費用②	建替費用 ③	建替までにかかる 費用(①+②+③)	今後の方針
46,700(0)	158,880	56,743	254,208	357,651	廃止
129,150(38,262)	159,045	83,499	254,472	467,121	継続
90,180(19,710)	156,903	88,258	251,044	429,482	継続
44,496(10,872)	100,070	34,310	160,112	238,918	廃止
174,127(0)	155,245	79,563	248,392	502,082	継続
85,312(0)	159,150	85,543	254,640	425,495	継続
80,082(0)	157,175	60,625	251,480	392,187	廃止
93,544(8,932)	159,248	87,586	254,796	435,926	継続
743,591(77,776)	1,205,716	576,127	1,929,144	3,248,862	—

ウ まとめ

今後の方針として、設備が稼働する限り使用し廃止する施設は、「高雄学習等供用施設」、「柏森学習等供用施設」、「山名学習等供用施設」です。3施設とも長寿命化は図らずに使用し、機能は他施設へ統合する予定です。この3施設に関しては、建替を行いません。

他の5つの学習等供用施設については、大規模改修を行い、長寿命化していきます。

借地については、他分類施設と同様に多く存在しており、借地料として経常経費がかかっています。今後、継続していく学習等供用施設の敷地に借地がある場合は、優先順位をつけながら購入による取得を検討していきます。

また、建替を行わない3施設の縮減見込みの面積は、合計で1,664.50㎡であり、この縮減により維持更新にかかるおよそ8億1,747万8千円の費用の縮減があわせて見込めます。

(4) 施設整備の水準等

2017(平成 29)年 3 月に策定した総合管理計画では、更新費用の必要額を策定時より 40 年間で約 377 億 7,000 万円と見込みました。本計画策定にあたり、今後 30 年間の更新費用を試算すると約 299 億 2,000 万円必要となります。人口減少による税収減により財政が厳しくなる予想の中で、全ての施設を維持していくことは困難です。

そのため、前述のとおり総量コントロールを行い、継続とする施設については長寿命化を前提とした大規模改修を行い、施設を維持管理していきます。廃止する 2 施設、統合する 8 施設による更新費用の縮減額は、22 億 1,326 万 3 千円ですが、今後は、更なる施設縮減と施設運営費用のスリム化も併行して行わなければなりません。

また、P26 で示した施設の縮減面積目標 6,598.75 m²に対して、本計画での縮減見込み面積の合計を 6,954.26 m²としており、人口減少に比例した最低限達成しなくてはならない数値を導いております。

8 計画の推進に向けて

学校施設では、約 640 m²の減築を見込みますが、これは学校施設全体の 1.5%にとどまっています。P24 で試算したとおり、学校毎の減築面積が少なく、将来負担を減少させるまでの数値ではありませんので、次の段階として学校の統合による効果を検討していく必要があります。

一方、公共施設・公用施設では、本計画で見込んだ総量コントロールを行っていくことで、目標とした縮減面積を達成できる見込みです。

今後は、計画的な維持修繕、設備更新等による施設の長寿命化を前提としながら総量コントロールを行い、社会情勢の変化や緊急性を踏まえて公共施設のあり方や再配置を引き続き検討していきます。

また、本計画の推進に向けて、総合管理計画のもと、各施設管理課とのヒアリングを行い、施設管理計画の進捗を確認しながら必要に応じて適宜計画の見直しを行います。

